



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/1 (月)	+ 500	▲ 14,600	▲ 14,100	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (2年)			日: 日銀短観 (2Q) 米: ISM製造業景況指数 (6月) 欧: ユーロ圏製造業PMI (6月)
7/2 (火)	トン	▲ 13,000	▲ 13,000				欧: ユーロ圏CPI (6月)
7/3 (水)	トン	▲ 50,000	▲ 50,000	法人税・消費税・保険掛け 国債発行 (10年)			米: FOMC議事要旨 (6月11、12日開催分) : ADP雇用統計 (6月) : 貿易収支 (5月) 欧: ユーロ圏総合・サービス業PMI (6月)
7/4 (木)	▲ 1,000	+ 1,000	トン				欧: ECB議事要旨 (6月開催分)
7/5 (金)	トン	▲ 12,000	▲ 12,000	国債発行 (30年)			日: 景気先行CI指数 欧: ラガルドECB総裁講演 米: 雇用統計 (6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2,500億円減少の553兆9,400億円から始まった。その後、国債買入オペ、国債発行等の要因により増減し、28日は、551兆7,800億円 (速報) で越週となった。

無担保コールON物加重平均金利は週初、一部金融機関の試し取り要因もあり、0.081%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は0.076%~0.078%で推移した。

ターム物は1W~1M物を中心に0.15%~0.20%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、1日に日銀短観 (2Q) の公表、海外では3日に米FOMC議事要旨 (6月11、12日開催分) の公表、5日に欧ラガルドECB総裁の講演などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.07 ~ 0.078
1M	0.15 ~ 0.20
2M	0.15 ~ 0.30
3M	0.15 ~ 0.30
6M	0.30 ~ 0.50

<レポ>

足許GC取引は週央まで+0.08%~+0.09%を中心に出合い、26日の後場には+0.05%近辺まで低下した。

取引が月末跨ぎとなる27日は+0.00%~0.01%まで低下、発行が重なった28日には+0.05%~+0.06%に上昇した。

SC取引は2年438~461回債、5年149~169回債、10年350~374回債、20年180~188回債、30年65~82回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.030 ~ 0.050
CP 3M	0.10 ~ 0.25

<CP>

今週の入札発行総額は約30,200億円で、週間償還額の37,900億円を下回った。発行残高は先週末時点の24兆1,512億円から6月27日時点で24兆7,940億円に増加した。発行市場は電気機器、食料品、鉱業、機械、石油製品などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で0.1%台前半から0.25%近辺での出合いであった。

来週の償還額は、約3,500億円となっている。発行市場は、期明けの発行再開に伴う大型の発行も見込まれることから、取引は活況が見込まれる。発行レートは、7月30・31に開催される日銀金融政策決定会合への警戒感から、1M程度では引き続き0.10%台前半での出合いとなる一方、3M超の案件については0.30%前後の出合いも散見されるであろう。

CP等買入オペは25日に、予定通り3,000億円でオフアされた。結果は按分レート0.167% (前回0.158%)、平均落札レート0.184% (同0.186%) と前回比で按分レートが上昇した一方で、平均落札レートが低下した。

<TDB>

28日の3M (1240回債) の入札は、最高落札利回り0.0200% (前回債0.0059%)、平均落札利回り0.0160% (前回債▲0.0035%) となった。

来週の入札は、7月5日に3Mが予定されている。